

2023 年度 友愛労働歴史館事業計画

3年に及ぶ昨今のコロナ禍において、ホテル業・飲食業・観光娯楽業等のサービス業は著しい環境側面におかれ、業況は不振を極めている。一般財団法人日本労働会館においても、収入源であるホテル業の三田会館の不振は、会館存続の危機を招いている。友愛労働歴史館はこれらの種々の課題を受け止め、2022年度から当面の間、従来の活動を縮小してⅠ展示会・講演会活動、Ⅱ資料の収集・管理作業、調査・研究活動、Ⅲ情報発信・PR活動などに取り組むこととする。2023年度(2023.4.1～2024.3.31)の事業計画は次の通り。

Ⅰ 展示会・講演会活動について

1. 展示会（常設展・企画展）活動

(1) 常設展について

常設展「日本労働運動の100年余—友愛会・総同盟（戦前）を中心とする」は、必要なメンテナンスを行いつつ、同一テーマで引き続き通年開催する。

(2) 企画展について

当面は休止する。

2. 講演会活動

友愛労働歴史館は企画展と連動させた講演会・労働講座を単独で、もしくは労使関係研究協会や友愛会創立を記念する会などその他の団体と共催してきた。しかし、3年に及ぶ新型コロナウイルス・パンデミックによって、2021年度以降は中止した。このような状況と当館の現状を踏まえ、当面は休止する。

Ⅱ 資料の収集・管理作業、調査・研究活動について

友愛労働歴史館は年間を通し、資料・管理に取り組んでいくとともに、必要な調査・研究活動に従来通り取り組んでいく。

1. 資料の収集・管理

友愛労働歴史館は連合資料室、社会・労働関係資料センター連絡協議会（労働資料協）と連携し、①友愛会から同盟までの民主的労働運動、②社会民衆党から民社党までの民主的社会主義運動、③福澤諭吉や安部磯雄らユニテリアンゆかりの社会運動に関する資料の収集・管理に取り組む。

友愛労働歴史館には今まで個人・団体から寄贈を受けた資料が未整理状態にあり、当館倉庫（友愛会館地下1階、同2階）に保存している。年間を通し、これらの資料の整理作業に取り組んでいく。

2. 調査・研究活動

友愛労働歴史館は、常設委員会として「ユニテリアンと社会運動研究会」、「政治・社会運動史研究会」の二つの常設委員会を設置は継続する。当面は、必要に応じて調査・研究活動を行う。また、井堀繁雄研究会では、井堀繁雄（労働運動家・協同組合活動家・政治家、日本労働会館理事長）が残した手帳のデジタル化作業に取り組み、必要な調査・研究を行う。

Ⅲ情報発信・PR活動について

友愛労働歴史館は情報発信・PR活動として、2023年度に以下の取り組みを行う。

1. インターネットを利用したメールレポート「友愛労働歴史館たより」の発信
2. 友愛労働歴史館ホームページでの情報提供・PR活動
3. 公式ツイッター（@yuairekishi1912）の活用によるPR活動
4. インターネットのアドレス登録者約1300名強を対象とする情報提供、PR活動

Ⅳその他

1. NPO法人働く文化ネット（総評会館）の労働映画鑑賞会（毎月1回・第二火曜日）に参加、協力していく。
2. 労働運動・社会運動関連資料のリユースに取り組んでいる労働資料協（社会・労働関係資料センター連絡協議会）の活動に参加していく。
3. 友愛労働歴史館が所蔵する資料を活用し、民主的労働運動や民主社会主義運動、ユニテリアンゆかりの社会運動に関する研究者の調査・研究活動に協力していく。

以上